

天主閣

だより



マキキ聖城キリスト教会

「主の御業・『新しい事』に備えよう」
マキキ聖城キリスト教会 具志堅 聖牧師

マキキ教会の皆さま、そして天主閣だよりの読者の方々に心から感謝を申し上げます。皆さまのお祈りと助けをいただき、無事に当教会での牧師職を終えることができました。「神の恵みは確かに私たち人間の弱さの内に働かれる」という経験をいただき、さらに深く主を知る機会を得たと思っております。主に栄光、神の民に感謝。退任後、絶えず次のみことばが私に語りかけられています。

「主はこう仰せられる。『彼らはみな倒れて起き上がれず、燈心のように消える。先の事どもを思い出すな。昔の事どもを考へるな。見よ。わたしは新しい事をする。今、もうそれが起ころうとしている。あなたがたは、それを知らないのか。確かに、わたしは荒野に道を、荒地に川を設ける。野の獣、ジャッカルや、だちょうも、わたしをあがめる。わたしが荒野に水をわき出させ、荒地に川を流し、わたしの民、わたしの選んだ者に飲ませるからだ。わたしのために造ったこの民はわたしの栄誉を宣べ伝えよう。』」（旧約聖書・イザヤ四三・十七、二十一）

これは預言者イザヤが神の民に語った言葉です。最終的には終末の出来事を指しています

が、この言葉は絶えず神の民に「主の御業に備えるように」と繰り返し語られた言葉でもあります。

「新しい事」とは何を預言されたのでしょうか？「荒野」とは道がないので荒野と言われました。「荒地」はもともと「砂漠」を意味する言葉でした。「荒野に道を、荒地に川」とは、常識では考えられない「新しい事」が起きつつあるというメッセージでした。かつてユダヤ教のラビがこのイザヤ書を引用して「この『新しい事』とは、紅海の水が二つに分かれて乾いた地を通るよりも偉大なわざなのである」と語りました。まさに想像を超える出来事を意味していたのです。

イスラエルの過去の「道」と「川」の出来事とは何でしたか？それらは二つ。一つは、エジプトの脱出の時にモーセが率いる神の民が「紅海の水の中の道」を通ったことでした。またもう一つは、約束の地カナンに入った時、ヨシヤが率いる神の民が「ヨルダン川の中のできた道（通路）」を渡ったことでした。旧約聖書にはこのような貴重な神の御業の歴史が刻まれています。

しかし、ここで驚くべきことは、預言者イザヤがそのような過去の出来事を「思い出すな」、「考へるな」と忠告していることです。なぜでしょうか？

それは「わたしがする新しい事」は以前のこととは異なる。それを「知る・悟る」ようにと教えられたのです。直接的にこの預言は異国の王さまであったクロス王を通してバビロン捕囚から神の民が解放される中で成就しました。異邦人の権力者を用いて国を動かし、その御業を表されたのです。そしてその後、御子イエス・キリストを通してすべての民の救いの道が開かれるという出来事にまで続いていくのです。

神の御業は私たちの想定を超える出来事なのです。

マキキ聖城キリスト教会にとって、もう「思い出すな」と言われる「過去の出来事」とは何でしょうか？祈り期待すべき「新しい事」とは何でしょうか？時代は異なり、環境は変わっても、変わらないものがあります。それは、同じ聖書の神は生きておられ、確かに「新しい事」を神の民になしてくださるということなのです。ぜひこの事を心に留めて、これからの伝道と教会形成にお進みください。神の恵みと祝福をお祈り申し上げます。



テリーさんの簡単クッキング

鶏手羽のピリ辛みそ 四人分

鶏手羽 12本、ピーマン 5個、にんにく、しょうが各1かけ、ネギ10cm、
合わせ調味料: みそ大さじ2-3、酒・砂糖各大さじ2、ごま油・しょうゆ各大さじ1、豆板醤小さじ1-2

- ① ピーマンを縦半分に切り、種を取り、幅2-3センチ幅に切り目を入れ端から薄く小口切りにして、みじん切りする。合わせ調味料はボールに入れて混ぜ、みそをよく溶きのぼす。
- ② 鶏肉はペーパータオルなどで、よく水気を拭いて、パットなどに並べる。小麦粉を茶こしで振り、たたいて粉をよくとる。
- ③ 揚げ油を中温にセットし、小麦粉と同量の水で溶いてからめ、中火で時々返ししながら表面をカリッときつね色に揚げ油をきる。
- ④ 鍋を熱し、サラダ油大さじ1を入れ、にんにく、しょうが、ねぎを入れ、中火にし、香りがでるまで炒め、ピーマンを加えてさっと炒め合わせ、調味料を入れてからめ、強火にし、鶏肉を入れ、さっとからめる。



のぞみの会便り

のぞみの会には長い歴史があります。日本語を話す二世のためには始まった会は年月をへて徐々に英語が第一言語の参加者も増えていきました。日本語を話さなくても日本語の唱歌となると歌詞を見ずにフルコーラス歌える人も。幼い頃に身についたことは忘れないものなのです。

毎週水曜日 午前九時より

今後の予定

☆七月の礼拝スピーカーのご案内

七月三〇日(日)

マキキ教会音楽宣教師 北浜教会音楽主事

高瀬 真理宣教師

七月二九日(土) 午後一時開場 マキキ教会にて。

Duo 高瀬 サマー・コンサート

全米ツアーの最終地ハワイでの恒例夏のコンサート。

今月の証

「全てに時がある・・・」

三田村 真理子

二〇一五年十一月末・母の体調が良くないという知らせがありました弱音を吐くのが苦手な母は「大丈夫だから」と言いましたが、「こんな時真理子がいてくれたらな」と、いつもはそんな事は決して言わない父の一言で、すぐに日本に向かったのです。

最初の一週間は、母の世話をしたり、父とも美味いお酒を一緒に飲み、楽しい時間を持ちました。父は本当に喜んでくれました。しかし、いつもは元氣な父が急に背中が痛いというので病院に連れて行ったその時、既に心筋梗塞と肺炎を患って、先生からはとても危ない状態だと宣告されました。

それでも入院中の父は笑顔を絶やしませんでした。でも病魔というものは次に脳梗塞というものを発症させてしまったのです。父は酸素吸入をし、ベッドの上で危篤状態でした。

すぐにハワイの母教会の具志堅先生に連絡をし、父の病床洗礼をお願いしました。先生は地元の教会の先生を紹介してくださり、家族了解のもと、洗礼を受けることが出来ました。そして、三日後讃美歌が流れる部屋で父と母と妹と私と4人で手を繋ぎ、神様に祈りその後、父は眠る様に安らかな顔で天に召されました。まるでドラマのワンシーンのようでした。

葬儀場では、キリスト教のお葬式を執り行いました。父に洗礼を授けてくださった牧師先生がメッセージをしてくださり、息子の弾くウクレレとともに、皆さんと讃美歌を歌い、心からの葬儀を終えることが出来ました。

弔問客の皆さんはキリスト教のお葬式は初めての方ばかり・・・来てくださった人たちは、「キ

リスト教のお葬式で、こんなにも心清々しい気持ちになれるとは・・・初めて知りました。」と、皆さんが口を揃えて言うてくださいました。神様がすべてにおいて働いてくださっていたと感じ、心から感謝しました。

しかし、父を亡くした私たちの心は時間と共に更に想い出すことが多く、特に母はいつも泣いていました。父が亡くなって半年以上経ったある日・・・母が父の遺品を整理していると、古い聖書が出てきました。

日曜学校に通っていた時の聖書でした。今から70年以上前の古い革張りの聖書です。

父は昔、教会に行ったことがあるとは聞いてはいました。

現にハワイに来たときマキキ教会の礼拝に出席し、父が「父、御子、御霊」の讃美歌を歌っている姿を見て、子供たちが、おじいちゃん凄いいね〜と言うと、自慢げに、また、照れていましたから若い頃、その聖書を片手に教会に通っていたのでしよう。

父はずっと銀行員でしたので幾度かの転勤もありましたが、どこに引越しても、その聖書だけは父の荷物の中にあつたわけです。それを遺品の中から母が見つけた。実は母はずっと気になっていたのでありました。病床洗礼は父の願いだったのだろうか。でも、その聖書が出てきて母は確信したそうです。これが父からの答えだと・・・

それから母の心はとても軽くなったそうです。そして、父が天に召されてから一年半後・・・母は私に「お母さん洗礼受けるわ、神様のことをもつと早く知っておきたいの。お父さんみたいに最後ではなく、生きていううちに」と神様を知っておきたいの・・・そして、何よりもお父さんと一緒の場所に行きたいのよ」と母は妹にもそのことを伝えました。妹は以前教会に

通い、ピアノのご奉仕をしたことがありましたが、クリスチャンではありませんでした。しかし父が亡くなってから聖書通読をし、神様に祈るようになりました。すると、その妹の口から、私も受けたい・・・というのです。母と同じ気持ちだったと思います。

本当に切なる願いに思えました。そして、洗礼の機会を与えられました。ちょうど具志堅先生が日本に来られている時でそのタイミングで、先生と、以前父に洗礼を授け、葬儀をくださった地元の先生の立ち合いの元、二人は無事、洗礼を授けていただくことが出来ました。

私たち親子は、皆クリスチャンとなりました。両親がキリスト教の幼稚園を選び、私を入園させたことも、讃美歌を歌いながら育った時代も神様から離れ、祈ることも忘れていた時代も、そして、日本を離れ、このマキキ教会でクリスチャンとなり歩んでいる今も、すべてが神様のご計画だったのです。

今、私も母も妹も心はとても平安です。今月から、母と妹は地元の先生より聖書の学びを受けます。次回、私が日本に帰国した時は3人で聖書の話が出来ることを楽しみにしています。母の病は辛いものですが、今、心の平安を知りすべてを感謝することが出来ると言っています。ここまでこれたのもずっと諦めずに祈っていただくことが出来たのもマキキ教会の兄弟姉妹の方々のおかげです。本当にありがとうございます。

神のなさることは、すべて時にかたまって美しい。

神はまた、人の心に永遠を与えられた。しかし人は、神が行われるみわざを、初めから終わりまで見きわめることができない。

伝道者の書 3:11

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば多くの実を結ぶ

ヨハネによる福音書12:24

編集後記

日本の様々な場所であらゆる被害が出ていますね。心よりお見舞い申し上げます。天災は人の手ではどうすることもできないのですが一人でも多くの方の安全が守られ安心して暮らせますように。

大塩 直子

私にとつてはマキキ二度目の無牧生活が始まります。今回は「私たちは牧師交代によって成長する」ことを学び、それぞれがしっかりと成長したと思えます。そして今回は「見よ、私は新しい事を始める」に信頼し、歩き始めようとしています。新しいものが大好きな私にとつてはワクワクするような言葉ですが、さてさて、どんな新しい事が待っているのでしょうか？具志堅先生六年間たくさんのお教えをありがとうございました。

玉寄 朋子

責任者 マキキ聖城キリスト教会 宣教部
編集 玉寄朋子 大塩直子
レイアウト 大塩麻由

